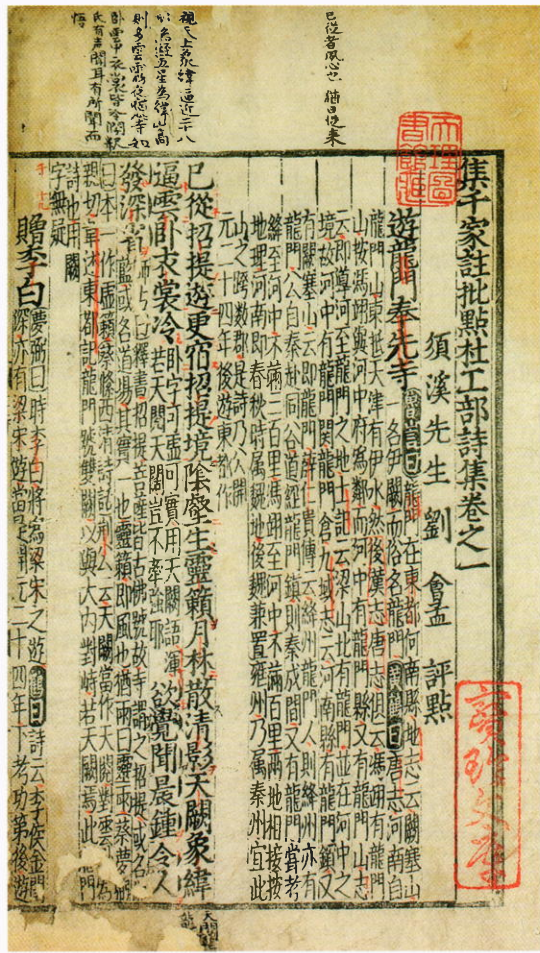


やまとの名品 天理図書館



しゅうせん かりゅうひてんと こうぶ ししゅう
 集千家註批點杜工部詩集

ごさんぼん
 五山版

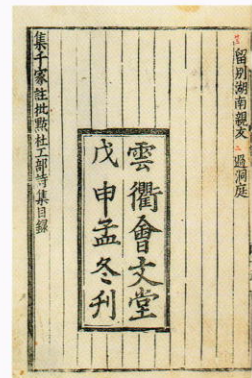
南北朝期(14世紀)刊 12冊
 縦27.2cm 横16.7cm

唐代の詩人杜甫（七一〜七七〇）の詩文集『杜工部集』の注釈書。南宋の劉辰翁（一二三二〜一二九七）が批点（批評解説）したものを元の高楚芳が編集した。本書は幾多の注釈を集めたものであるが、無駄がなく簡明である。また詩の排列は編年の体をとるなど、その体裁には読者を意識した工夫がなされている。杜詩の伝来は平安初期に円仁（第三代天台座主七九四〜八六四）が唐に留学した後にもたらされたとの記録があるが、平安時代には専ら白居易（七七二〜八四六）の詩がもてはやされ、杜甫の詩が読まれるようになるのは鎌倉末、京都や鎌倉に

点在する五山（寺格の高い寺院）の禅僧によつてからである。特に中巖圓月（一二三〇〜七五）や義堂周信（一二三五〜八八）といった高僧が杜甫を絶賛してから、にわかには尊重されるようになった。本書については絶海中津（一三三六〜一四〇五）と如心中恕（生没年不詳）が元に留学し、本書の講釈を学び帰国してから、禅僧の間で流布していった。掲出書は元朝の至大元年（一三〇八）に会文堂が刊行した版本を南北朝時代に忠実に覆刻（原本の敷き写しを版下にして板刻、印刷複製すること）したもので、出版した禅宗寺院に因んで五山版と称されている。

五山版はそれまで仏典（主にお経）中心の出版事業を外典（文学・歴史・思想など仏典以外の書籍）に拡大したことで知られるが、古来天台・真言の二大派を中心とする僧侶と博士家と呼ばれる学問を職業とする一部の貴族に限られていた学術・文化の担い手がこの後、武家や富裕商人へと広がっていく事にした役割も看過できない。

（天理図書館 吉成伸仁）



天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時〜午後5時半） 土・日・祝（午前9時〜午後4時半）

○2月の休館日:13日〜22日・28日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）